

川の表流水のみに頼つたりして單なる灌溉其の目的のみのために龍大な資金を永久に固定せしむるような遣り方は禍を子孫末代まで遺すもので、爲政者の大いに戒心して懼れなくてはならぬことと思ふ。只滿洲や中國の現状に於て必ずしも今直に此の様な理想的計畫を實行すべきものであると主張するのではない事は勿論である。

7. 結論 山西省に於ける水源水利、治水、治山、問題は今日に於ては未だ搖籃時代である。たゞ今後の育て方如何により其の將來が定まる要は根本の方策を誤まらざるにある、而して山西省の三厄中少なくとも二厄だけは除去せられ得べき素質を具備してある事は今回の視察に依り誤りなきものと信ずる。依つて成るべく速かに統制ある機關を設置し之に依つて水利、治水、治山に就て法制、技術兩方面に互り綜合的調査計畫を進むるを可とする。又山西省には有名なる山西大學があり、又農業專科學校がある。若しも之等の學校に於て農業土木工學、森林土木工學、特殊造林學、鑿井工學、農業並に水利用器具機械に關する特徴ある實際教育を施し斯道の權威者、實際家等を輩出せしむるならば前記綜合計畫と共に、内には省建設 10 年計畫をして有終の美を成さしむると共に恐らく外に於ては中國全體を指導する事が決して空想であるまいと思ふ。水に關し天惠の乏しき國が科學的努力に依り自然を征服し自國を利し他國を指導しつゝある事は世界の通例である。

以上の視察に基き概念を述べたに過ぎない、個々の問題に就ての技術的意見に關しては山西省當局より資料を送附し來る事になつて居るから、夫れに依つて改めて詳論する事とす。

上水道  
下水道

## 水道協會第4回總會並に部會記事

副會長 工學博士 草 間 偉\*

水道協會第4回總會並に部會は、秋色甜なる11月6日より8日に至る3日間廣島市内借行社で開催せられた。出席者は正會員114ヶ所、276名、特別會員43名、賛助員12名、來賓29名と言ふ協會として未曾有の多數で、開催市の關係者を加へると400名を越す盛況であつた。來賓として河口技師、小泉軍醫總監、大井教授、西田教授、倉塚教授、久保教授、井上秀二氏、茂庭忠次郎氏、小川織三氏等水道界の先名士多數の顔も見へ、主催地の横山市長の顔は朗であつた。

總會は6日と8日の兩日に互り開かれ、會務の報告、常設調査委員會の報告、9年度決算の承認、11年度豫算議決の外、緊急動議に依り上下水道國庫補助に關する陳情を爲すこととなり、滿場一致を以て決議文を可決して内務大藏兩大臣宛之を打電すると共に、上申書を可決して提出した。

尙常設調査委員會よりの報告に依る水道用水種類規格改正案、水道用鉛管規格改正案、下水試験法案も今總會の可決を見相當の收穫を得たのであつた。

部會は7日終日開かれたが、今回の提出新問題は56件、研究問題6件、計62件であつて、可成重要視されるものが多數あつた。部會は4部に分かれて専門的に審議したのであつて、其の概要を記述すれば次の通りであつた。

第1部會(事務の部)に附議せられたものは、新問題25件であつて、内審議を盡し議了となつたものは11件、建議陳情することとなつたもの9件、常設調査委員附託となつたもの4件理事全員を委員とする特設委員會附

\* 東京帝國大學教授

託となつたもの1件であつたが、水源確認の爲河水利用に關し水道事業者に優先權を認むる様建議する件に就ては、多數會員が苦い經驗を有する處である爲相當論議を重ねた。

第2部會(上水工務)と第3部會(下水工務)は聯合部會として開いた。附議された問題は上水工務の新問題は13件、前回より研究問題として存置のもの5件計18件であつて、密議の結果議了のものは11件、常設調査委員會附託のものは、標準型13mm量水器規格制定、協定翼車式量水器規格改正、水道用ゴム規格制定、鐵管塗裝に關する調査2件、緩速濾過池に於ける夏季濾過膜剝離浮游の原因並に防止方法調査、印籠接手の填隙材料調査、以上7件の多數に上つた。尙今回は協定水道用高級鑄鐵管規格中改正に關する問題として、提出せられたものが4件もあつて、何れも密議の結果提案理由を認めたが、將來本規格改正の際考慮することとなつた。

下水工務は新問題10件で何れも慎重審議をつくして全部議了となつた。

第4部會(水道衛生)今回提出新問題8件、研究問題1件計9件で、内7件は議了となり、硫酸礬土の協定試驗法及び購入規格制定、銅管使用に於ける成績調査の2件は研究問題として1箇年存置研究することとし、前記硫酸礬土に關しては、東京市が草案を作ることとなつた。

尙前述常設調査委員會報告の、下水試驗法案は當部會の密議に移したのであつて、本案調査に當つた委員の説明があり慎重討議の結果滿場一致を以て可決された。